

# PRESS RELEASE

2003.9.14 VER.1.9

森美術館開館記念展

## ハピネス アートにみる幸福への鍵 モネ、若冲、そしてジェフ・クーンズへ

### HAPPINESS: A SURVIVAL GUIDE FOR ART + LIFE

# 1

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

東京の現在を発信する街「六本木」に誕生した複合文化都市「六本木ヒルズ」。その中央に高くそびえる六本木ヒルズ森タワーの最上層 52 階、53 階に、10 月 18 日、「アート & ライフ」をテーマとする森美術館(館長:デヴィッド・エリオット、東京都港区六本木 6-10-1)がオープンいたします。都市型のライフスタイルをリードし、働く、遊ぶ、暮らすのすべてを夜遅くまで満喫できるのが六本木ヒルズです。ショッピングやディナーと同様、アートを楽しんでいただくために、展覧会はもちろん、シンポジウムやレクチャーなど、さまざまなプログラムを展開してまいります。アートとライフが一体となり、今を生きていく上で本当に大切なものを見つけられる場所を目指します。

さて、開館記念展「ハピネス:アートにみる幸福への鍵——モネ、若冲、そしてジェフ・クーンズへ」では、「幸せ」という全ての人にとって大切なテーマを通して「アート & ライフ」を追求いたします。「幸せ」の概念を独自の解釈で 4 つに分け、それぞれのセクションにおける幸せを「旅」のように体験していただきます(詳しくは別紙 2 をご参照ください)。本展は、日本初の外国人館長として注目されている当館館長デヴィッド・エリオットと、ゲスト・キュレーターのピエール・ルイジ・タッツィによる共同企画となります。伊藤若冲、ポール・セザンヌ、クロード・モネ、アンリ・マティス、パブロ・ピカソ、アンディ・ウォーホル、ルイズ・ブルジョワ、草間彌生、オノ・ヨーコ、荒木経惟、村上隆、ジェフ・クーンズなど、アジア古典美術、印象派を含む近現代西洋美術、そして現代アートから約 250 点、180 名余りの作品(別紙 3 をご参照ください)が展示されます。

つきましては、本展を貴メディアにて是非ご紹介くださりますようお願い申し上げます。

敬白

展覧会タイトル - ハピネス:アートにみる幸福への鍵 モネ、若冲、そしてジェフ・クーンズへ

会期 ————— 2003 年 10 月 18 日 [土] → 2004 年 1 月 18 日 [日] 会期中無休

開館時間 ——— 日・月・水・木 10:00 ~ 22:00、金・土・祝前日 10:00 ~ 24:00、火 10:00 ~ 17:00  
(いずれも入館は閉館の 30 分前まで)

入館料 ————— 一般 1500 (1200) 円、学生(高校・大学生) 1000 円、子供(4 歳以上~中学生) 500 円(予定)  
( ) 内は団体料金 ※森美術館にご入館いただいた皆様は展望台東京シティビューにもご入館いただけます。

会場 ————— 森美術館 (六本木ヒルズ森タワー 52F、53F) 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー  
03-6406-6100 (代表)

+ ご掲載いただく際のお問い合わせ電話番号は、03-5777-8600 (ハローダイヤル) をお願いいたします。  
(ハローダイヤルは 9 月中旬からサービス開始予定)

交通: 都営地下鉄日比谷線「六本木駅」徒歩 0 分(コンコースにて直結)。都営地下鉄大江戸線「六本木駅」徒歩 4 分。都営地下鉄大江戸線「麻布十番駅」徒歩 4 分。JR 渋谷駅より都営 01 系統バス(渋谷~新橋)「六本木六丁目」下車。JR 渋谷駅より都営 88 系統バス(渋谷~新橋)「六本木六丁目」下車。有料駐車場有。

主催: 森美術館 後援: 日本放送協会、読売新聞社、日本経済新聞社、J-WAVE 協賛・協力: 日本航空株式会社、ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社(以下五十音順) SAMSUNG、株式会社損害保険ジャパン、東京海上火災保険株式会社、BMW Group Japan、ヤマトグループ、バルフレイト株式会社

#### プレス発表・内覧会のお知らせ

プレス発表・内覧会の開催を予定しております。後日あらためてご案内申し上げます。皆様のご来場をお待ちしております。

日時・会場: 10 月 16 日 [木] 11:00 ~ 15:00 アカデミーヒルズ 六本木フォーラム タワーホール

- ・森美術館+開館記念展「ハピネス」プレス発表 11:00 ~
- ・プレス・レセプション+内覧会 12:00 ~ (13:00 プレス・レセプション終了、15:00 内覧会終了)

10 月 17 日 [金] 17:00 ~ 23:00 (予定) 関係者レセプション+内覧会

10 月 18 日 [土] 10:00 ~ 一般公開

#### PRESS RELEASE

#### プレスリリース

#### お問い合わせ

広報部 担当: 高山、鈴木、高橋  
TEL: 03-6406-6111  
E-mail: pr@mori.art.museum  
Web: www.mori.art.museum

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# ハハピPPIネネスSS

# 2

**概要 「ハピネス」は、生きるための幸せのかたちをアートに探る旅です。**

「幸せ」とは何でしょう。それは誰にとっても身近なことがらなはずです。「アート & ライフ」をテーマとする森美術館の開館記念展「ハピネス」は、人間にとっての永遠のテーマである「幸せ」をアートを通して探ります。本展は6世紀から19世紀に渡る日本や、その他のアジア古典美術、モネ、セザンヌなど印象派を含む西洋近現代美術、さらに新しい表現を謳歌する現代アートなど約250点、180名余りの**世界中の美術の名作**を「アルカディア」、「ニルヴァーナ」、「デザイア」、「ハーモニー」という4つのセクションに分けて紹介する**展覧会**です。このように異なったジャンルの作品を同じ空間に展示するのは、世界で初めての試みです。会場では、観客はそれぞれのセクションを、世界を旅するように歩きながら鑑賞し、美術に現れたさまざまな幸せのかたちを体験していきます。経済の低迷や戦争など、不安な要素の多い今の時代ですが、そのようなときこそ幸せについての考察が必要なのではないでしょうか。アートは時代の空気を反映するとともに、未来へと向かう力を持っています。本展は、決して天国とはいえないこの現実世界をいかに楽しく生き、幸福へ至ることができるかを考える一つの機会にもなるでしょう。

## 「アルカディア」 地上の楽園

みんなが楽しく暮らせる社会であって欲しい。そんな理想の場所をもとめて、人々は地上に楽園を夢見てきました。そこには社会の理想が映しだされています。個人ではなく、社会全体にとっての幸福。ここから、この展覧会＝幸せを求める旅は始まります。



ルオ兄弟  
《我、北京天安门を愛す》  
1996-97 写真、コンピュータ・グラフィック、水彩、漆、板  
写真提供：福岡アジア美術館



## 「ハーモニー」 調和と均衡

あらゆる葛藤の中でバランス地点を見いだすことは、今を生きるための大切な知恵といえるかもしれません。そして、幸せを求めて始まったこの旅が、会場を出ても続くことを願っています。



吉原治良  
《無題(白地に黒の円)》  
1967 油彩、キャンバス  
写真提供：芦屋市立美術館(蔵)



## 「ニルヴァーナ」 精神へ

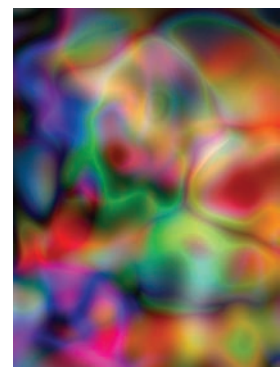
地上の世界から一転して、物質や肉体から解放された世界を旅します。そこには、永続する精神的な幸福感が静かに広がっています。あたかも宇宙の神秘を目前に感じるような、畏敬に満ちた空間。その雰囲気にもふさわしく、仏像、抽象画などが多く展示されます。



中国、北齊時代  
《菩薩頭》  
550-570 石灰岩  
写真提供：ロンドン・ギャラリー

## 「デザイア」 欲望の解放

ここでは、誰にとっても無関係ではありえない個人の抱く欲望の世界をポジティブに捉えます。欲しいものを手に入れる、快適な生活を送る、そのような、自分の欲望が満たされたときに覚える幸せ。そこには、肉体的な欲求や消費欲なども含まれています。そして欲望は、満たされてもまた次の欲望を生み、といった具合に膨らんでいくのです。



トーマス・ルフ  
《基層6 III》  
2002 ジェットインクプリント  
写真提供：ギャラリー小柳

**PRESS RELEASE**

プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## 「ハピネス」出品予定アーティスト

### 現代 (1950 ~)

- アデル・アブデセメッド
- 荒木経惟
- ヨゼフ・ボイス
- ピーター・ブレイク
- アリギエロ・ボエッティ
- ルイズ・ブルジョワ
- マルセル・ブローターズ
- ジェームス・リー・バイヤーズ
- アンソニー・カロ
- ヴィヤ・セルミン
- チェン・リージ (成砺志)
- チェ・ジョンファ (崔正化)
- ジョゼフ・コーネル
- リチャード・ディーコン
- ピーター・ドイグ
- ヘリ・ドノ
- マルレネ・デュマス
- マイケル・エルムグリーン/インガー・ドラッグセツト
- トレイシー・エミン
- オイヴィンド・ファールストローム
- ピーター・フィッシュリー/ダヴィッド・ヴァイス
- ダン・フレーヴィン
- フォーチュン/オプライエン
- ハミッシュ・フルトン
- ギルバート&ジョージ
- ドミニク・ゴンザレス・フェルステル
- ダン・グラハム
- カオ・ギマレース & リバーニ・ノイエシユヴァンダー
- フィリップ・ガストン
- ダニエル・グーズマン
- リチャード・ハミルトン
- ハワード・ホジキン
- シラゼ・フシャーリー
- カールステン・フラー
- クリスティーナ・イグレシアス
- ジョン・ソヤン
- イリヤ・カバコフ
- アンニッシュ・カプーア
- 川俣正
- ドウリヤ・カジ/ダヴィッド・エルスワース
- イエイン・ケア

- キム・ Cholok
- キム・ソンリョン
- キム・ヨンジン
- ピーター・キンレイ
- イヴ・クライン
- ケー・ジュンガ
- ジェフ・クーンズ
- 草間彌生
- スラン・クソンウォン
- ピーター・ランド
- リー・ウファン (李禹煥)
- マーク・ルイス
- チャールズ・ロング
- ルオ三兄弟 (羅氏三兄弟)
- エヴァ・マリサルディ
- アグネス・マーティン
- 丸山直文
- デヴィッド・メダラ
- 宮島達男
- 森村泰昌
- ホワン・ミュノス
- 村上隆
- 奈良美智
- ブルース・ナウマン
- クリス・オフィリ
- オノ・ヨーコ
- ジョヴァンニ・オットォーラ
- ジュリオ・パオリニ
- エドゥアルド・パオロツィ
- アド・ラインハート
- プリジット・ライリー
- トーマス・ルフ
- ロバート・ライマン
- レモ・サルヴァドーリ
- トーマス・シュッテ
- マルチェッロ・シメオネ
- トーマス・シュトゥルツ
- 杉本博司
- スーパーフレックス
- バスカル・マルティン・タユー
- フレッド・トマセーリ
- メッテ・トロンボル
- サイ・トゥオンブリー
- ヤン・ヴェルクロイス
- ビル・ヴィオラ

- アンディ・ウォーホル
- ウィム・ヴァウマン
- ジリアン・ウェアリング
- トム・ウェッセルマン
- シュ・ビン (徐冰)
- ヤン・フードン (楊福東)
- 吉原治良
- ジャン・ペイリー (張培力)

### 近現代西洋美術

- ボール・セザンヌ
- ルネ・クレール
- ジョン・コンスタブル
- アンドレ・ドラク
- ボール・ゴッガン
- ワシリー・カンディンスキー
- フェルナン・レジェ
- エドゥアル・マネ
- アンリ・マティス
- アレクサンドル・メドヴェトキン
- ヘンリー・ムーア
- クロード・モネ
- ドミニク・バベティ
- パブロ・ピカソ
- レニ・リーフェンシュタール
- ヴァルター・ルットマン
- ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー
- ヴィガ・ヴェルトフ

### アジア古典美術

- 文清
  - 白隠慧鶴
  - 伊藤若冲
  - 狩野永納
  - 狩野正信
  - 勝川春章
  - 葛飾北斎
  - 雅熙
  - 遮莫
  - 曾我蕭白
  - 天遊松谿
  - 東嶺園慈
  - 雲谷等的
  - その他、6 ~ 19 世紀のアジア古典美術多数
- (2003年8月28日現在)

## 「ハピネス」キュレーター紹介

### デヴィッド・エリオット

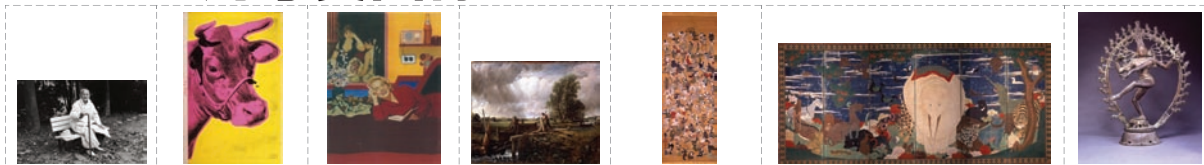
オックスフォード近代美術館館長、ストックホルム近代美術館館長を歴任。現在、日本初の外国人館長として森美術館館長に就任。

### ピエール・ルイジ・タツツィ

美術評論家、コラムニスト、インディペンデント・キュレーターとして活動中。本展のゲスト・キュレーターとして参加。

## +プレス用写真画像

プレス用写真画像をご用意いたしました。本展のご紹介とともに掲載いただきたく、お願い申し上げます。



上記以外の画像もございます。森美術館 Web サイト内「画像請求フォーム」から、フォームにご記入の上お申し込みください。  
<http://www.mori.art.museum/> → MENU → プレス → プレス用画像ストック

上記写真左から

荒木経惟 《ライフ・ハイ・ライカ》1999 写真 写真提供: 一色與志子  
 アンディ・ウォーホル 《牛の壁紙》1966 壁紙にスクリーンプリント ©The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts / ARS, N.Y. & JVACS, Tokyo, 2003  
 トム・ウェッセルマン 《グレート・アメリカン・ヌード #50》1963 ミクストメディア、コラージュ、アッサンブラージュ、ラジオ 写真提供: Gagosian Gallery  
 ジョン・コンスタブル 《水門を通るボート》1826 油彩、キャンバス 写真提供: The Royal Academy of Arts, London  
 雅熙 《百福図》19世紀 絹本着色 写真提供: 東京文化財研究所  
 伊藤若冲 《鳥獣草木図屏風》18世紀 紙本着色、六曲一双 写真提供: 東京文化財研究所  
 南インド、タミルナド、チョーラ朝時代、970年頃 《舞踏の神ンヴァ》 c.970 写真提供: ニューヨーク・アジアソサエティ

## プレス用写真画像 お問い合わせ

広報部 担当: 高山、鈴木、高橋  
 TEL : 03-6406-6111  
 E-mail : pr@mori.art.museum  
 Web : www.mori.art.museum

## PRESS RELEASE

### プレスリリース

## ?! パブリック・プログラム

### 『UNPACKING HAPPINESS — 明かされるハピネス』

森美術館開館記念展「ハピネス」を企画した、森美術館館長デヴィッド・エリオットとゲスト・キュレーターのピエール・ルイジ・タッツィが、どのように展覧会のコンセプトを形作り、作品やアーティストを選んだのか、そして、この展覧会を通して何を伝えていきたいのか、について語ります。

日時：2003年10月18日【土】14:00 - 16:00（開場13:30）

会場：アカデミーヒルズ 六本木フォーラム タワーホール（六本木ヒルズ森タワー 49階）

定員：300名

入場料：無料（要展覧会チケット）

通訳：同時通訳（日本語、英語）

#### パネリスト

- デヴィッド・エリオット（森美術館館長）
- ピエール・ルイジ・タッツィ（「ハピネス」ゲスト・キュレーター）、他

#### 開館記念シンポジウム

### 『幸福を求めて — PURSUIT OF HAPPINESS』

「ハピネス」に関連し、開館記念シンポジウム『幸福を求めて』を開催いたします。このシンポジウムは、さまざまな文化、社会、思想を踏まえながら、現代における「幸福」の意味を、哲学、宗教、文学、政治、経済、科学、ニューメディア、テクノロジーなどの幅広い分野に言及しながら論じ、検証します。

日時：2003年10月31日【金】13:00 - 19:00（開場12:00）

2003年11月1日【土】13:00 - 18:30（開場12:30）

会場：アカデミーヒルズ 六本木フォーラム タワーホール（六本木ヒルズ森タワー 49階）

定員：350名

入場料：一般4000円、学生3500円（2日間、展覧会入場料込）

通訳：同時通訳（日本語、英語）

#### パネリスト（五十音順）

- 浅田彰（京都大学経済研究所助教授）
- 香山リカ（精神科医、神戸芸術工科大学視覚デザイン学科助教授）
- ペマ・ギャルポ（チベット文化研究所所長、岐阜女子大学学南アジアセンターセンター長）
- 中沢新一（宗教学者、中央大学教授）、他

また会期中、ギャラリー・トーク、アーティスト・トーク、ワークショップなどを行います。

学校、グループでの利用については、担当までお問い合わせください。

#### パブリック・プログラムに関する お問い合わせ

パブリック・プログラム 担当：杉浦、三浦  
TEL：03-6406-6101  
E-mail：pp@mori.art.museum

## MAM コンテンポラリー

MAM コンテンポラリーとは、アートをより身近に楽しみたい個人および法人のために、森美術館が提案する新しいメンバー制のコミュニティです。年間を通じての無料入館をはじめ数々の特典をご利用いただくとともに、メンバー向け特別イベントなど様々なプログラムに参加し、現代のアートを体感することができます。気軽にご参加いただける学生・アーティスト（年会費5,000円）、フレンド（年会費8,000円）から、フェロー（年会費25,000円）、ベネファクター（50,000円）、また法人メンバーまで、カテゴリーに応じて、様々な特典とプログラムを設けています。

#### PRESS RELEASE

プレスリリース

#### MAM コンテンポラリーに関する お問い合わせ

ディベロップメント 担当：辛、片山、森谷  
TEL：03-6406-6123  
E-mail：mam@mori.art.museum

# 森美術館を知っていただくために

## 森美術館について

六本木ヒルズの文化的シンボルとして、六本木ヒルズ森タワーの52階、53階に開館。現代アートをメインに、建築、デザイン、ファッションを紹介する美術館です。2003年10月18日(土)開館。

## 理念

森美術館は、誰もが現代の芸術や文化を享受できるよう、美術館という公共機関としてはこれまでにない場を提供します。新たな方法と切り口で、展覧会、イベント、プロジェクトなどさまざまな活動を行い、来館者の感性を刺激します。また、キャリアの有無を問わず、日本、アジアそして世界中のアーティスト、デザイナーのための国際的な拠点として機能していきます。芸術と文化は、今という時代を真に示すものであるという信念のもと、「アート & ライフ」が全ての人にとって重要なものと考えてまいります。

## リーダーシップ

森美術館理事長：森 佳子

館長：デヴィッド・エリオット

副館長：南條 史生

副館長：篠原 研二郎

インターナショナル・アドバイザー・ボード：

- ・ヴェンツェル・ヤコブ（ドイツ国立美術展示館館長）
- ・グレン・ラウリイ（ニューヨーク近代美術館館長）
- ・アルフレッド・パクマン（ボンビドゥー・センター国立近代美術館館長）
- ・ノーマン・ローゼンタール（ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ芸術監督）
- ・ペーター・クラウス・シュースター（ベルリン国立美術館館長）
- ・ニコラス・セロータ（テート館長）

## 組織構成

六本木ヒルズに高くそびえる森タワー。その最上層部5階分が「森アーツセンター」です。森アーツセンターは、東京スカイデッキ、東京シティビュー、六本木ヒルズクラブ、六本木アカデミーヒルズ、ミュージアム・ショップ、そして森美術館で構成されています。

また六本木ヒルズのパブリック・スペースには、国際的に活躍するアーティストやデザイナーの作品が多数点在しています。

## PRESS RELEASE

プレスリリース

## 森美術館の建築について

美術館の建築デザインは、ギャラリー・スペースの設計で国際的に著名なグラックマン・メイナー・アーキテクツが担当(森タワーはコーン・ペダーセン・フォックスの設計)。美術館へのエントランス「ミュージアム・コーン」から、高速エレベーターで52階へ。外光豊かなギャラリー空間が52階に3つ、53階に6つあります。

## 「ハピネス」以降の展覧会

2004年2月7日～2004年4月11日

「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」

2004年2月7日～2004年4月28日

「草間彌生：KUSAMATRIX」

2004年4月28日～2004年8月1日

「MOMA コレクション特別企画展モダン再考：アートの継続性と変化、1880年から現在まで」

2004年5月12日～2004年7月19日

「イリヤ & エミリア・カバコフ：私たちの場所はどこ？」

2004年12月～2005年3月

「ホット & スパイシー：アジアのクリエイターの今を描く」

2006年1月～

「アフリカを超えて：現代アフリカ美術とその未来」

年間5～6回開催される個展シリーズ

「MAM プロジェクト」

場所を森美術館内に限定せず、アーティストの紹介を目的とする個展シリーズ。

## パブリック・プログラム

美術館内外で、ツアー、レクチャー、シンポジウム、ワークショップなどを継続的に行うプログラム。これまでに、韓国のアーティスト、チェ・ジョンファによるワークショップ「生活財博物館 in 東町小学校」、シンポジウム「アート、デザイン、そして都市」を開催。また、「エデュケイター・プログラム」実施のためのサポート・スタッフを公募しました。

## お問い合わせ

森美術館 広報部 担当：高山、鈴木、高橋  
〒106-6150  
東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー  
TEL：03-6406-6111 FAX：03-6406-9351  
E-mail：pr@mori.art.museum  
Web：www.mori.art.museum